巻　頭　言

新しい教育課程の創造を目指して

学校長　岡　田　禕　雄

平成９年11月，教育課程審議会は中間まとめを公表し，次期教育課程の内容がだんだんと具体的になってきた。それに伴って学習指導要領の作成作業も始まり，次期教育課程へ向けての本格的な作業が始まった。

今回の改訂の特徴は，完全週５日制の実施と，総合的な学習の設置にあるといえるであろう。これらを実現するためには，当然のことながら，従来の教科等の授業時数を削減する必要がある。実際，教育課程審議会の授業時数（案）によると，道徳以外はすべて削減されている。下は６学年の現行と新課程の年間授業時数の変化を示している。

国語（210⇨175），社会（105⇨100），算数（175⇨150），理科（105⇨95），音楽（70⇨50）
図工（70⇨50），　家庭（70⇨55），　体育（105⇨90），　道徳（35⇨35），　特活（70⇨35）

教科等の授業時数がこのように削減されるのであるから，指導内容の大幅な削除が必要である。この点に関しては，これまでの教育課程の改訂のたび毎に「精選」が強調されてきた。今回の改訂では「精選」と言うだけでは対応しきれないという意味を込めて「厳選」という語が使われている。本気で指導内容の大幅な削減を行わなければ，完全週５日制の実施も，総合的な学習の設置もおぼつかないという危機意識が，その用語に込められている。

ところで「厳選」と言うのは簡単であるが，その実現はむつかしい。それは従来の改訂のたび毎に「精選」を強調し続けなければならなかったという事実に見取ることができる。「精選」にしろ「厳選」にしろ，その実現がむつかしい原因は，それが教師の教科指導に対する意識に大きく関わっているからである。算数を例にとると，子どもは帯分数の計算に苦労するようである。そのため教師も帯分数の計算指導には熱心のようである。しかし学習指導要領の６年をみると，「分数の乗法及び除法の意味について理解し，それらを用いる能力を伸ばすとともに，乗法及び除法についての理解を深める」と述べてあるだけで，帯分数の乗除を指導せよとは書かれていない。帯分数の計算は小学校を卒業すると人生で二度と行うことのない計算である。しかも学習指導要領にも明示されていないにもかかわらず，帯分数の計算は昔から指導されてきたから指導すべきものであり，その計算技能を身につけさせるべきであるという教師の意識によって，それが指導され続けているのである。

言い換えると，「厳選」は学習指導要領の「第２　各学年の目標及び内容」の「２　内容」に関わるのではなく，「３　内容の取扱い」に関わっているのである。「２　内容」を削除すれば，それは指導されることがないから「厳選」される。しかし問題は「２　内容」が削除されない場合である。この場合には「３　内容の取扱い」でその程度を明示しなければ，その内容は従来と同じように指導され続け，「厳選」されることはあるまい。

本校では昨年度から，「自立に向かう子どもたち」をテーマとして，新しい教育課程の創造を目指した研究を続けている。昨年度はこのテーマのもとに教科の在り方を中心に考察してきた。本年度はそれに加えて，総合的な学習についての検討を始めている。最終的には上述した各教科等の内容の「厳選」を視野に入れた，広島大学附属東雲小学校に固有な教育課程を創造する予定である。それまでの道程は未だ遠く，いばらの道と言えそうである。そうであっても全教官が全力を出し切ってそのために努力を続ける所存である。読者各位のご叱正を心からお願いする次第である。